

令和6年10月21日

太田市議会議長 高田 靖 様

立憲民主党 岩瀬 僚

## 第86回全国都市問題会議報告書

健康づくりとまちづくり  
～市民の一生に寄り添う都市政策～

1 期日 令和6年10月17日(木)から10月18日(金)

2 場所 アクリエひめじ(姫路市文化コンベンションセンター)

3 内容

■基調講演

生命を捉えなおす 一動的平衡の視点からー  
生物学者、青山学院大学教授 福岡伸一氏

■主報告

市民の「LIFE」(命・暮らし・一生)を守り支える  
姫路の健康づくりとまちづくり  
兵庫県姫路市長 清元秀泰氏

■一般報告

生き物から学ぶ健康なまちづくり  
筑波大学システム情報系教授 谷口守氏

■一般報告

都市そのものを健康にするまちづくり  
～ストレスを軽減し、リフレッシュできるまちへ～  
千葉県流山市長 井崎 義治氏

■一般報告

IT/AIの健康分野への適用例  
～姫路市の健診データ解析と歌唱による誤嚥予防～  
兵庫県立大学副学長 畑 豊氏

## ■パネルディスカッション

### 【テーマ】

健康づくりとまちづくり ～市民の一生に寄り添う都市政策～

### 【コーディネーター】

中央大学法学部教授

宮本 太郎氏

### 【パネリスト】

高岡病院児童精神科医

三木 崇弘氏

NPO 法人日本栄養パトネット理事長

奥村 圭子氏

長野県茅野市長

今井 敦氏

大阪府泉大津市長

南出 賢一氏

## 健康づくりとまちづくり

### 概要

本テーマは「健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市政策～」と題して、健康づくり政策に対する自治体のあり方を論じる。市民の一生に寄り添った「健康づくり」とは何かを議論したうえで、自治体の健康づくりに求められる新たなニーズや課題等を、理論と実践の両面から幅広く議論する。日本の社会保障制度は中負担・中福祉から高負担・高福祉の方向にシフトしつつある。住民、国、自治体のいずれにとっても負担増が懸念される中、生活習慣病による住民の健康づくりへの支援が社会的課題となっている。人口減少・少子高齢化が進む社会において、「誰一人取り残さない」、市民の一生に寄り添う都市政策としての「健康づくり」とは何かについて論じる。

### 所感

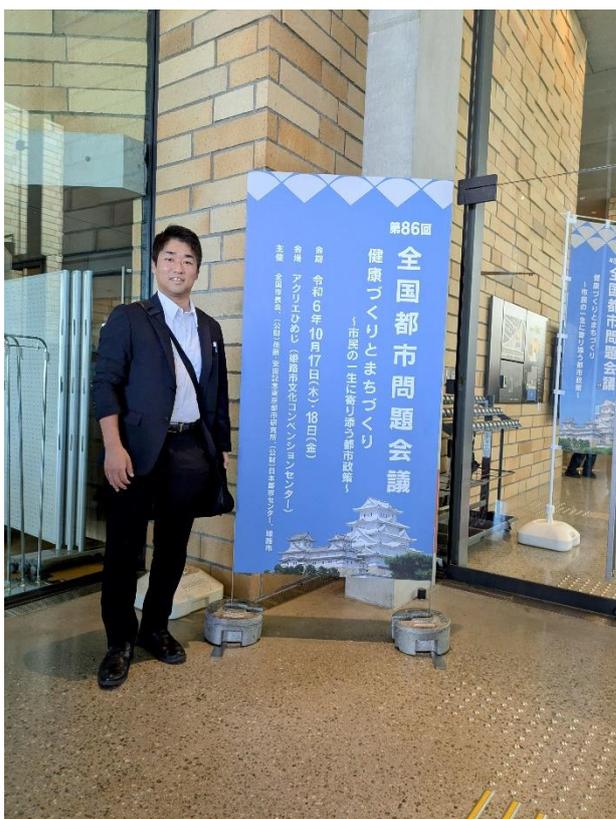
今回のテーマについては、基調講演から一般報告においても学術的な色合いが強いと感じた。市長たちによる具体的な政策の実践的取り組みについての話は理解しやすいが、大学教授たちによる話は専門性と抽象度が高くなり、話に付いていくことが難しかった。自治体が住民の健康づくりに果たす範囲は、人の一生に関わることであるから非常に長く、そのアプローチ方法も多様であって「市民の一生に寄り添う健康づくり」を考えるに当たって様々なファクターを捉えていく必要があるのだなと感じた。自治体の取り組み方が、健康寿命の延伸やがん死亡率の改善、認知症サポーター数の増加に結び付いていく。

報告の中で、私が理解出来て興味関心を持ったのは、姫路市長による報告とパネルディスカッションでの児童精神科医のお話であった。姫路市長の経歴が元々は医者ということもあり、医療政策を一般市民に対しても分かりやすく語れるという印象を持った。姫路市における健康づくりの政策については、①市民による主体的な介護予防を促進、②ウォーカブルなまちづくり、③ICTを活用した健康づくり、④未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援、といった点を掲げており、その内容も分かりやすかった。

私も令和6年度6月議会一般質問で認知症について取り上げたため、認知症に関する施策には関心を持っていた。介護が必要となった要因として認知症が最も多く、それに次いで多いのが脳血管疾患である。また、がんや糖尿病、心疾患を合わせると、25%以上の人々が、これらの疾病が原因で介護が必要な状態に陥っている。こうした疾病は、食生活や運動、飲酒、喫煙などの生活習慣と関係しており、そのため姫路市は身体の健康について個別相談を行っている。

児童精神科医の話からは、子どもたちの「心理社会的な健康」に注目し、子どもの数が減っているにも関わらず、不登校の子どもは年々増加しており、また発達障がいの診断数も上昇の一途をたどっている。診療していて感じることに、「完璧主義」と「ネガティブな自己表現の苦手さ」があるという。これは先日の全国市議会議長研修フォーラムでの「主権者教育」にも関係する話であると感じた。つまり、子どもたちは”間違い”や”否定”を恐れており、自己を肯定したうえで政治判断して選挙に行くという行為には高いハードルがあると思われる。政治・社会、つまり”公共”のことを考える以前に、”自己”(自分自身)について考えることで精一杯なのである。

まちづくりが”公共”のことである以上、子どもたちの「心理的安全」や「心理的健康」が保たれないと次代を担う主権者が育たない。健康づくりについて、予防や心理の観点から多くの気づきを得ることが出来た。



(アクリエひめじ入り口付近)



(会議風景)